

平成27年3月7日

南の風 114

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

うれしいお知らせです。星澤 純一ヘッドコーチ率いる、羽田ヴィッキーズが最下位を脱出しました。

3月6日（金）と7日（土）に、大田区の大森スポーツセンターで行われた日立ハイテククーガーズ戦に、見事連勝して順位を**10位**に上げました。6日（金）に、**今シーズン初勝利**を挙げた羽田ヴィッキーズは、7日（土）も接戦を制しました。ヴィッキーズの皆さん、そして星澤ヘッドコーチおめでとうございました。（おめでとうという言葉がふさわしいかどうかわかりませんが、取りあえずです。）

6日は観戦できませんでしたが、7日はビーバースの女子の選手と応援に行きました。ゲームの前に星澤ヘッドと話しました。そうしたらなんと、6日（金）のゲームに、星澤ヘッドはインフルエンザのため指揮が執れなかったそうです。驚きました。しかし、阿部 真弓アシスタントコーチがしっかり指揮を執り、77対69で見事今シーズンの初勝利を収めました。

まず、6日（金）のゲームについて簡単に書きます。（ゲームレポートから）ゲーム開始して、いきなり2対13とリードを許すが、その後11番森本選手、15番落合選手の活躍で盛り返す。2Qは、日立ハイテクの3番、21番の3ポイントが決まり、羽田も11番森本選手の3ポイントなどで追うが、前半を34対46日立ハイテクのリードで折り返す。後半は、羽田15番落合選手の3ポイントや、52番外山選手の連続得点や、さらに3ポイントも決まり羽田が逆転する。その後も14番瀬崎選手のミドルや、落合選手の3ポイントで日立ハイテクを振り切り、うれしい初勝利となりました。このゲーム、15番落合選手は3ポイント5本を含む28点の大活躍でした。

7日（土）のゲームについて書きます。ゲーム前、星澤ヘッドは私に「昨日はハイテクがシュートを落とし過ぎた。今日はそう簡単にはいかないと思う」と表情を引き締めていました。

戦評風に流れを簡単に書きます。前半羽田はオフェンスがうまく機能せず、15番落合選手らの3ポイントで凌ぐ形となる。日立はポストプレーやペリメーターのシュートで得点する。2Qに9点ビハインドになったところで羽田がタイムアウト。この直後11番森本選手、14番瀬崎選手が連続得点を挙げる。前半終了時28対31で日立ハイテクリード。後半は立ち上がり、両チームシュートが決まらない。羽田は、52番外山選手のシュートや55番小松選手のカットインで逆転する。ハイテクは、12番や35番のシュートで再逆転する。羽田は31番高木選手が3ポイントを沈め再びリードする。その後も11番森本選手、15番落合選手の連続得点でリードを広げる。一時ハイテク7番の3ポイントで2点差となるが、羽田がフリースローから1点追加し、60対57で連勝を決めた。

最後に感じたことを書きます。羽田は点の入れあいになると苦しいです。前にも書きましたが、少ないチャンスをものにして、しつこいディフェンスで相手を苦しめるというスタイルです。

このゲームでもスクリーンからの合わせ、素早いパスからのカットイン、ポストと外の合わせを使い攻めていました。緻密にノーマークをつくるのが羽田の生命線です。前半はショットの精度が悪く苦戦しました。ペリメーターやカットインからの「**ショットを決め切る**」ことの大事さを改めて感じました。トップリーグにもミニバスにも共通することです。

それではまた次号で。